

# 北読進協だより

第11号 (優良読書グループ表彰特集号)



読み聞かせグループ「マーガレット」(優良読書グループ全国表彰)  
ほら、できたよ！(七夕工作会に参加した子どもたちと)

## 平成17年度優良読書グループ

### <全国表彰>

読み聞かせグループ「マーガレット」 (札幌市)

### <北海道表彰>

読み聞かせの会「わらび」 (札幌市)

おはなしさんた恵夢 (恵庭市)

お話し会「あいあい」 (美瑛町)

北見お話の会 (北見市)

苫小牧子どもの本の会 (苫小牧市)

### <北海道地域活動振興協会理事長賞>

おはなしの会「グリとグラ」 (三笠市)

ふれあいサークル (平取町)

おはなし会「スキップ」 (新得町)

## はじめに

今号は、秋の読書週間に合わせて表彰が行われた平成17年度の優良読書グループを特集して紹介します。今年度は、例年の全国表彰1グループ、北海道表彰5グループに加え、当協議会の構成団体である北海道地域活動振興協会よりご厚意を賜り、新たに北海道表彰の中に「北海道地域活動振興協会理事長賞」が新設されました。同賞は、北海道表彰の中で、特に地域に根ざした活動をしているグループを表彰するものです。

今年度表彰された9グループは、いずれも地域で子どもたちと読書・本とを結びつけ、何より子どもたちの笑顔のために地道に活動を続けて来られたグループばかりです。今回、各グループの代表の方にご寄稿いただいておりますが、長く活動をされているグループの中からは、かつて読み聞かせに来ていた子どもたちが大人になり、読み聞かせ活動を始めたというエピソードを紹介してくれています。読書の楽しみや喜びは、こうして次の世代へつながっていくのだなと実感した次第です。

これからも当協議会では、優良読書グループ表彰事業などを通じて、こうした読書グループの活動を応援して行き、子どもたちへ「読書のすばらしさと可能性」をつなげていくお手伝いをしていきたいと考えています。

# 全 国 表 彰

## 読み聞かせグループ「マーガレット」 札幌市

会員数：10名 昭和54年9月設立 代表：深澤幸子さん

### 活動の内容

月4回の定期活動で、3回に図書館でお話会を行い、残り1回でその準備や勉強会、手作り紙芝居の作成などを行っています。ひなまつりやこどもの日、七夕、9月のお月見に工作会を行うなど、季節毎の行事もいろいろ実施しています。



また、通常の図書館での読み聞かせのほか、病院の入院児童への読み聞かせとして、病室へ出向いたり、入院している児童に集まってもらったりして絵本の読み聞かせを行っているのが特徴です。

創立以来の会員が変わらず活動を続けていて、他グループの読み聞かせ指導なども行っています。

### 代表の深澤さんにお話を伺いました

#### グループ設立から今まで

札幌市東札幌図書館の前身である札幌市菊水図書館で、昭和54年に実施された「読書奉仕コース」の受講生を中心に設立され、菊水図書館の「菊」にちなんで「マーガレット」と名付けました。以来26年、発足当時のメンバーが残って活動を続けています。この間には高校生の参加もあり、大学生になり、就職し、結婚をして転勤で他の地区に行かれて、活動はお休みしていましたが、その方がある日お子様といらしたので皆はびっくり。その場で読み聞かせをしてくれました。

会はいろいろな人々がグループに参加して支えてくれました。図書館に来る子どもたちが対象ですので、主に絵本の読み聞かせが活動のメインです。

「子どもは親達も祖父母も今の姿、形で生まれて来る」と考えていると知った時、大人の私は驚きました。この子たちがこれから出会うつらさ、悲しみ、喜びを物語の世界で伝えなくてはと思いました。

## 読み聞かせの時に大事なこと

絵本作者の文も絵も大切に心掛けて読んでいます。今は流れていく映像に出会うことが多い中で、文章と文章の間の感想は、聞いている人、読んでいる人、皆それぞれです。読む本はメンバー各自に任されていますが、子どもが退屈しないように、事前の打ち合せをします。頼まれて図書館以外の場所に出掛けていくときは、初めての場所でもあり、なにかしら不都合がおきますが、どんなハプニングも乗り越えて無事終了して来ました。グループ皆の機転の良さだと思います。無責任なのは困りますが、出来ることと出来ないことをお互いきちんと伝えて、困ったことが起きた時はお互いに助け合います。

子どもたちに一度も「静かにして下さい」とお願いしたことはありません。季節行事にあわせて人形劇、親子一緒に工作等、図書館の協力を頂き、多くの活動をして来ました。

人は、本との出会いがないと読書好きにはなれません。読み聞かせで感動した子は、図書館から、たくさん本を借りていきます。親たちが本に興味を持ってくれますように願って活動しています。

## 心に残っているエピソード

或る日、若い人に道で声をかけられ、私たちのお話を聞いた子がお母さんになって読み聞かせの活動をしていると聞くと本当に嬉しいものです。

先日夜に、小学校の温室でキャンドルの灯の中で大型の本を読む機会がありました。幻想的な雰囲気の中でお話しを楽しんでいただけた様子で、お客は大人でしたが、これからは物語が癒しになると実感しました。

## 最後に

子どものきらきとした期待を込めた瞳に出会うと、より良い活動の場にしたいと、メンバーは一生涯懸命です。これからも私たちは楽しんで活動を続けていきたいと考えております。



読み聞かせグループ「マーガレット」

～十周年記念文集



# 北海道表彰

## 読み聞かせの会「わらび」 札幌市

会員数：16名 昭和63年10月設立 代表 寺林恵さん

### 活動の内容

曙図書館で月4回、あけぼの児童館で月1回、幼児・小学生対象の読み聞かせをしています。夏と冬には、「おたのしみ会」としてふだんの読み聞かせに加えて、大型紙芝居や人形劇、パネルシアターなどを披露しています。

また、地域の保育所や小学校からの依頼を受けて、大型紙芝居などを行う出前講演も年に数回実施しています。

### 代表の寺林さんにお話を伺いました

#### グループ設立の経緯をお聞かせください

昭和62年に札幌市曙図書館が開館しました。翌年昭和63年に、同館で朗読養成ボランティア講座が開かれ、その講座の終了生で構成されたのが読み聞かせの会「わらび」です。

「わらび」という名前は、今から40年以上も前、まだ手稲町だった頃、現図書館のあたりは春になると一面わらびがはえていて、札幌や小樽から、たくさんの人がわらびを採りに来たそうです。そのことから「わらび」という名前を付けました。

#### 活動を行っていて「楽しかったこと」「大変なこと」をお聞かせください

楽しかったこと、大変だったことはたくさんあったように思いますが、その中で特に……というのは難しいことです。

大変なことは、始まった頃は会員が50名くらいいたので、中々本読みの順番は来ないし、皆で集まるにしても大人数で大変でした。今は17名の会員が下は小学生から上は80代と、年齢の幅が広すぎて一緒に活動できないことでしょうか。

楽しかったことは、家族の思い出のつまった衣類が熊や犬やオオカミになったりペットボトルがブタやカエルに……。皆でワイワイガヤガヤ、手も口もセッセと動かし、絵が得意な人、人形作りの上手な人、着物を縫う人、折り紙や手遊びの上手な人、全部苦手だと思ってる人、個性があってこそ「わらび」です。

## 「ここが我がグループの特長！」という点をお聞かせください

我がグループの特長というのは、やはり、曙図書館で誕生し、曙図書館で育てられたということでしょうか。

私たちが続けてこられたのは、曙図書館開館以来、全職員の強力なサポートがあるからです。歴代の館長さんの中には、人形劇におじいさんの役で出て下さったり、カメラマンになって下さったり、ギターで歌の伴奏をして下さったりします。毎回練習の場所を提供していただいたりしています。

出来るだけ地域に根差した活動をと考えていますので、区の社会福祉協議会にも参加し、他の団体との交流の場を持ちながら、お手伝いもさせていただいています。



## 今までの活動の中で心に残っているエピソードをお聞かせください

18年も続けていますと、沢山のことがありました。中でも、10年という節目に、手稲山口にある「バツ塚」を取り上げた大型紙芝居制作のときには、本当に多くの方々のお力添えをいただきました。現地見学に行ったり、地域の郷土史を調べている方のお話しをお聞きしたり、手稲町史を調べたりと、あらためて、私たちの住んでいる手稲のことを勉強しました。

それと95年阪神淡路大震災のとき、子どもたちに本を……ということでも市内の読み聞かせ団体が動きました。それをきっかけに、連絡会「おはなしの森」が出来ました。年に1, 2回の情報交換のための場を、各グループが持ち回りでもっています。多くの仲間との交流は、活動の励みでもあり刺激にもなっています。

## 今後の活動に向けての抱負をお聞かせください

私たちの活動は、図書館での絵本の読み聞かせが中心です。また児童会館の学童保育の子どもたちの読み聞かせも長くなりました。

年2回のお楽しみ会はいつも図書館に来て下さる子どもたちと一緒に、私たちも楽しみながら続けて来ました。人形劇や大型紙芝居、ボードビルやパネルシアターというように、普段出来ない活動をしています。

18年続けているということは、私たちも18年という年を重ねました。子を産み育て、親の介護をし、更年期になったり……。気がつけば孫のいる年齢になっていました。

これからも、絵本や紙芝居の持つ楽しさ、豊かさを皆と共有出来ればと思います。

## 北海道表彰

### おはなしさんた恵夢 恵庭市

会員数：25家族 平成元年4月設立 代表：内倉真裕美さん



伝達表彰後に、教育長と記念撮影。ちょっと緊張しています。

#### 活動の内容

月2回、図書館で読み聞かせを行っています。その他、平成5年から行っている「としょかんこどもまつり」には、他の読み聞かせグループとともに実行委員会を構成して参加していて、その代表を務めたり、実演の他にも運営や進行でリーダーシップを取るなど、中心的な役割を担っています。また、年2～3回、依頼を受けて読み聞かせや人形劇を小学校や育児サークルなどで行っています。「まつり」などの講演で使う人形劇はお手製で、人間の等身大ほどもある人形を使うものもあります。

#### 代表の内倉さんにお話を伺いました

##### グループ設立の経緯をお聞かせください

小学校のPTA学級レクで「花さき山」の影絵をやったことが始まりです。新興住宅地であった恵み野の子どもたちに文化薫るふるさとづくりをしようと、有志が集まり活動が始まりました。

活動を行っていて「楽しかったこと」「大変なこと」をお聞かせください

#### 楽しかったこと

子どもも大人も年齢に関係なくいろんな人と友達になりました。また、単に子育て中の親に留まらず、それぞれ個々がいろんな可能性を引き出すことができ、大きな催し物をする際にこのパワーが一つになり楽しみながら作業することができました。

#### 大変なこと

あまりないのですが、活動を長く続けているうちに会員が仕事を持つようになり、みんなとのスケジュール調整が難しいことです。

「ここが我がグループの特長！」という点をお聞かせください

おはなしさんた恵夢は最初から、「やれる人がやれる時にやりたいものを作る！」をモットーに活動してきました。なので、今は読み聞かせ中心の活動ですが、人形劇、お芝居、マリオネットなどその時にやりたいものを自分たちも楽しみながらやってきたことが最大の特長だと思っています。

今までの活動の中で心に残っているエピソードをお聞かせください



大きなステージで、みんなとても楽しそう。  
子どもと人形劇のミュージカル「サンタクロース物語」

まだ、会が出来たばかりの頃、自分たちで人形劇の人形なども作ってやっていくには、どうしたらいいのだろう……と、模索しているときに、札幌のやまびこ座におじゃましました。その時舞台裏作業場で一生懸命作業されているおじさん(失礼ですが)に館内の説明や展示されているお人形の説明を受け、「あなたたちも人形劇やってみたいの？」と聞かれ「はい、地域の子どもたちに見せてあげたいんです」とお話ししたところ、「どうか長く続けてくだ

さいね！ お母さんたちは自分の子どもが大きくなるとやめてしまうんですよね…」なんとそれが故・加藤先生との出会いでした。

その言葉は私たちの心にずっしりと響き、今も消えることなく残っています。

今後の活動に向けての抱負をお聞かせください

読み聞かせはもちろん継続してやっていくつもりですが、その他の活動もできる時にやりたいことをやっていこうと話合っています。

細くとも長く活動ができるように！ が目標です。



# 北海道表彰

## お話し会「あいあい」 美瑛町

会員数：15名 平成10年11月設立 代表：坂本ちひろさん

### 活動の内容

月に2回図書館で、月に1回児童館での定例お話し会を行っています。他にも、年間10数回、子育て支援センターや小学校・幼稚園などでお話し会を行っています。その他、ブックスタート事業での読み聞かせを行ったり、図書館から材料をもらってエプロンシアターを作成したりしています。



次のおはなしはななに？ 子どもたちは興味津々。

また、伊藤忠財団の助成で500冊の児童書を購入し、児童館に「あいあい文庫」を設立し、地域の人たちに利用してもらっています。この文庫は、今後も会の予算からお金を出して少しずつ増やしていく予定です。

### 代表の坂本さんにお話を伺いました

#### グループ設立の経緯

この度は、「優良読書グループ北海道表彰」をいただきありがとうございました。楽しみながら続けて来た「あいあい」の活動が、いつの間にか7年になりました。私が美瑛に来た頃は、図書館は外も内も古めかしく（今は建物はそのままですが雰囲気は明るくなりました）でも“絵本の部屋”という場所があったのです。ただ絵本のおいてある場所でした。せっかくだから読み聞かせをさせてもらいたい、と申し出たところ、館長さんからは「ここは本を貸す場所だからいけない」とのお答え。ビックリでした。それでも図々しく「3回だけ」と始めさせてもらったのが、今では89回を数えました。

最初の頃のお客さんは、読み手の若いお母さんの子とその近所の子で5,6人。今では幼児向けのときは、20人前後の参加があり、工作会も併せて開くと、部屋に入り切れなくらいになります。

お母さんに抱かれていた赤ちゃんも、1ヶ月後にはひと回り大きくなって、しっか

りした顔になって現れます。そのうちにお兄ちゃん、お姉ちゃんになる子もいて、おしゃべりも上手になって……。本当に子どもの成長する姿には感動します。これは、自分の子育てのときとは違った驚きと喜びです。

## 現在の活動

4人で始めた「あいあい」ですが、現在の会員は15人。パネルシアター、ペープサートが得意な人、“語り”ができる人、面白い手遊びができる人、器用にエプロンシアターを作ってくれる人、それぞれの人が、それぞれの都合に合わせて活動しています。「こんな人がいてくれるといいなあ」と思う人が集まって来てくれた気がしています。

ブックスタートの手伝いや、小学校や幼稚園への出前のお話し会も増えてきたので、仲間がいることは本当に有難いことです。楽しいことは皆でやると、もっと楽しいことになるのを実感しています。

## なつかしいエピソード

7年やっている間に、最初のお客さんだった洋子ちゃんが小学生になり、忙しいお母さんに代わってペープサートをしてくれたことがありました。聞き手の3歳の女の子たちはちゃんと洋子ちゃんのお話しに答えてくれました。とても微笑ましい光景でした。その子たちは0歳からの常連さんです。あと何年かしたら同じ光景にまた出会えるかも。そうなったら嬉しいな、と秘かに楽しみにしています。



## 参加者のひろがり

月1回だった「あいあい」に1組の赤ちゃん連れの親子が参加してくれたことから、赤ちゃん仲間の参加が増えました。2歳児教室で絵本やエプロンシアターを見せたことで、2歳児さんの参加も増えました。乳幼児と小学生が一緒では大きい子がかわいそう、ということで大きい子向けの日を別に設定しました。ところが、小学生の参加者が増えません。“小学生が自ら図書館のお話し会に参加してくれるようにするには”というのが今の私たちの課題の一つです。チラシは、防災無線は、工作つきのお話し会は、とあの手この手を模索しているところです。

0歳のブックスタートに始まり、乳幼児期の母子での楽しい絵本体験を経て、小学生になった子が、自分でお話し会に参加してくれるようになったら、主体的な読書活動にもつながっていくであろうと期待しています。その橋渡しとなる機会を、これからも作っていきたいと思います。

# 北海道表彰

## 北見お話の会 北見市

会員数：11名 昭和55年12月設立 代表：田中光子さん

### 活動の内容

月2回、図書館で読み聞かせを行い、年に2回、おたのしみ会として読み聞かせの他、大型紙芝居やパネルシアター、人形劇などを披露しています。その他、秋の北見図書館祭りでお楽しみ会と同じように読み聞かせや大型紙芝居等を行ったり、乳幼児ふれあい事業で検診時に読み聞かせを行っています。年数回、依頼



を受けて幼稚園や託児所で読み聞かせを行ったり、年数回、一般向けに会報「お話の会だより」も発行して、図書館などで配付しています。

### 代表の田中さんにお話を伺いました

#### グループ設立の経緯をお聞かせください

子どもと子どもの本の好きな仲間が集まり、テレビやゲームでは伝えることのできない子守唄のような肌のぬくもりと一緒に子どもたちに本の持つ自由な世界に触れ、夢や想像のふくらむ楽しさを伝えていくお手伝いが少しでもできればいいなと思って。

#### 活動を行っていて「楽しかったこと」「大変なこと」をお聞かせください

##### 楽しかったこと

読み聞かせを通して見せる子どもたちの澄んだまなざしや、豊かな表情、とびっきりの笑顔に出会える読み聞かせは読み手の私たちも「まあいい」気持ちになれて楽しいです。

## 大変なこと

いつも会員不足。年間を通して活動できる人が少なく、人手不足を感じます。

## 「ここが我がグループの特長！」という点をお聞かせください

19歳から70歳代と幅広い年齢層のためいろいろな意見が聞かれ、社会勉強の場にもなります。また、年2回のお楽しみ会は会員もここぞとばかりに総力をあげて、人形劇やパネルシアター、大型紙芝居の作品作りから人形劇の練習と力を発揮します。

## 今までの活動の中で心に残っているエピソードをお聞かせください

先日、近くの小学校に絵本の読み聞かせを依頼されて行った折、その中の1人の若い先生が「私、実は子どもの頃、北見お話の会の読み聞かせにいつも行っていました。そこで聞いたお話がおもしろかったので、今は子どもたちに読み聞かせをしています」と嬉しい報告を聞くことができ、とても感動して帰ってきました。

## 今後の活動に向けての抱負をお聞かせください

子どもたちが本を通じてさまざまな体験をしたり、感動するのを共有することができる読み聞かせを、これからもあまりきばらずに細く、長く、いつまでも続けていきたいと思います。



盛況なお話し会。この中から未来の読み手も現れる？

# 北海道表彰

## 苫小牧子ども本の会 苫小牧市

会員数：15名 昭和60年4月設立 代表：藤原佑子さん

### 活動の内容

月4回、例会で児童文学や読み聞かせの学習会を行い、月2回の図書館での子どもたちへの読み聞かせで成果を披露しています。その他、市内の小学校や幼稚園へも読み聞かせに行っています。

また、青空子ども図書館で読み聞かせや紙芝居を行ったり、他の読み聞かせサークルや学校などで読み聞かせを行っているお母さん方に読み聞かせの技術指導や協力を行って、読書活動の底上げをはかっています。



子どもたちとの「すてきなじかん」絵本の中に引き込まれます。

### 代表の藤原さんにお話を伺いました

#### グループ設立の経緯をお聞かせください

苫小牧子ども本の会は「子どもたちに本の楽しさを手渡したい」と願い1985年4月に発足し、以来20年間小さな歩みを続けている読書グループです。

当時、地域文庫に携っていた人たちが核となり「子どもたちに本のたのしさを！ - 子どもの本のお会をつくりませんか - 」という呼びかけがスタートでした。子どもの本に関するこのような市民の機運を察知して児童室を開放してくれた市立図書館の協力も一歩を踏み出す大きな支えとなりました。

89年、中央図書館の開館とともに「読み聞かせ」活動も始めました。この16年間に延べ9000人の親子が楽しんでくれました。

活動を行っていて「楽しかったこと」「大変なこと」をお聞かせください

楽しかったこと

読み聞かせの時、子どもたちと息のぴったり合った瞬間が至福の時です。たずね虫「クレリア」(セーラー出版)のポスターを見て、「ほら、こんなところにいたよ」と言った男の子も、もう中学生です。小さい時、心に留まる絵本を手渡したいと思っています。

大変なこと

子どもの本の会での読み聞かせは活動の日時に来館している不特定の子どもたちを対象に行います。年齢幅のある集団への読み聞かせは選本が大変です。それでもいろいろなジャンルの絵本を楽しんで欲しいと検討会は欠かしません。読み聞かせ1回分(3冊)のバランスチェックで、読み合わせと経験と知恵を出し合います。

「ここが我がグループの特長！」という点をお聞かせください

子どもの本の会の十周年記念誌名は「すてきなじかん」です。

この中に、「時代を越えて生きてきた絵本や児童文学は、苦しさ、悲しさ、とまどいをも未来を生きる力にかえてしまう魔法の力をもっているのでしょうか。試行錯誤の繰り返しだった私たちの10年間を「すてきなじかん」にかえてくれたようです」という文があります。更なる10年間もまだ魔法が効いているようです。過去、現在の全会員が「すてきなじかん」づくりに勤しんでいる、これが特長だと思います。当会の活動がテレビで紹介された後、「良い仲間をお持ちですね」と声をかけられる筆者です。

今までの活動の中で心に残っているエピソードをお聞かせください

苫小牧市の子育て支援施設、子育てルームに伺った時のこと - 不特定のブックスタート年齢の親子への読み聞かせでした。会場をぐるぐる走り回って何も見ていないような女の子がいましたが、終わる頃にはどの本も開いては「いないいないばあ」と言っていました。ブックスタートはそれでいいかもしれませんね。帰る時、本物の「いないいないばあ」(童心社)を「持って帰る」といって、取り上げるお母さんとひと揉め。あげればよかったかなあ。

2005年6月に「苫小牧子どもの読書活動推進計画」が策定されました。子育てルームに「いないいないばあ」は沢山あると思います。

今後の活動に向けての抱負をお聞かせください

子どもの本の会の呼びかけ文のイラストは綱を持って電車ごっこをする子どもたちです。目的地に早く着くための特急電車ではなく、足で歩く電車です。それを承知で乗り合わせた仲間たちとの20年間を大切に、一層活動を充実していきたいと思えます。

# 北海道地域活動振興協会理事長賞

## おはなしの会「グリとグラ」 三笠市

会員数 3名 平成10年2月設立 代表 晴山文子さん

### 活動の内容

月1回図書館で、同じく月1回市内の小学校1校と幼稚園で、読み聞かせやパネルシアター、紙芝居などを行っています。その他、乳幼児健診時に読み聞かせや子育てのアドバイスを行ったり、市内の小学校や幼稚園の依頼を受けて読み聞かせなどを行っています。

また、2005年にオープンした大型スーパー店内の書店を通じて依頼を受けて、同店内の喫茶店で月2回、書店のお薦め絵本を使った読み聞かせというタイアップを行っています。喫茶店は、あまりお客さんが入っていなかったそうですが、お話し会では毎回20～30人の人が集まるそうです。



### 代表の晴山さんにお話を伺いました

#### グループ設立の経緯をお聞かせください

以前から、図書館ボランティアとして絵本の読み聞かせをしていた「おはなしの会」に入会させてもらいました。

当時会員は6名でしたが、実際に活動しているのは2、3名程で、活動の範囲も図書館内の読み聞かせが主でした。

平成10年、家族の転勤や退会等の理由で会員が入れ替わったのを機会に改めて、おはなしの会「グリとグラ」を結成しました。

現在会員は3名で、絵本の読み聞かせのときにパネルシアターや人形劇にも挑戦しているところです。活動の場所も、学校や地域子供会、スーパーセンター内等広範囲となりました。

活動を行っていて「楽しかったこと」「大変なこと」をお聞かせください

#### 楽しかったこと

高齢者ボランティアの方たちと一緒に、昔遊び、かるたとり、謎々をして遊んだこと、なかでも礼儀作法でお茶やお菓子を正座していただいた時、おはなしの会では見る事のできない、緊張した子どもたちの姿を見ながら交わる事が出来たのは楽しかったことの一つです。

#### 大変なこと

これまでに2回程、おはなしの会に誰も来なかったことがありました。どうしたら参加してもらえるか頭を抱える日々が続きました。現在は参加者が増えつつありますが、幼稚園、学校、市の掲示板等を利用してPRに努めているところです。



「次は何が出てくるかな？」幼稚園でエプロンシアター

「ここが地域に密着したグループの特長！」という点をお聞かせください



地域とのコラボレーション、スーパー内の喫茶店にて

絵本の読み聞かせの他に、パネルシアター、人形劇、スライド等も行っているという点でしょうか。

活動の場所も、図書館内での読み聞かせを始めとして、乳幼児検診のコーナー、幼稚園、小学校、地域子供会、スーパーセンター内喫茶店コーナー等様々です。

図書館司書、児童館の先生から指導やアドバイスを受けながら一緒に活動して居りますが、少ない会員（現在3名）で広範囲にこうした事が出来るのは身近に指導者がいてくださるからこそと自負しています。

今までの活動の中で心に残っているエピソードをお聞かせください

初めて演じたパネルシアターで、セリフと人形の出番を間違えてしまいました。

パニックになってしまい、「どうしよう、どうしよう」と思っていた所へ、一人のよちよち歩きの幼児が前に出て来て、人形を動かし急場を救ってくれたこと。

その後、話の内容は多少違ってしまいましたが、参加していた子どもたちとも大いに盛り上がり、楽しい雰囲気のまま、無事に終わることが出来ました。

その時の幼児の姿を今も忘れることは出来ません。



今後の活動に向けての抱負をお聞かせください

絵本の読み聞かせの他に、パネルシアター等も行っていましたが、それ等は本に親しんでほしいための導入部であると考えます。

最終的には「本が好き」な子どもが増えてほしいとの思いです。そのためにも市内1小学校で行っている現在の活動を市内全小学校（6校）に広めて行きたい。

また、最近のおはなし会に父母の参加、特に父親の参加が目立つようになり、大変嬉しい傾向となっていますが、この方たちと何かできないか。

現在模索している状態です。

## 北海道地域活動振興協会理事長賞

### ふれあいサークル 平取町

会員数：10名 昭和58年4月設立 代表 門田信子さん

#### 活動の内容

布の絵本をつくるサークルです。年2～3冊のペースで作り、現在はエプロンシアターも含めて73冊出来上がっています。出来た布絵本は図書館に寄贈し、館内で利用してもらったり、学校や町内の団体などに貸し出して広く使われています。

活動はそれだけではなく、小学校や児童館、子育てサークルなどで年間各10回程度、読み聞かせを行ったり、乳幼児検診での読み聞かせ、高齢者施設への布製玩具の寄贈など、様々な地域活動をしています。その技術を生かして、他サークルへの布の絵本作製指導なども行っています。

布の絵本は、希望があれば平取町立図書館から市町村の図書館などへ貸し出すことができます。リストを掲載しますので、参考にしてください。



#### 代表の門田さんにお話を伺いました

グループ設立の経緯をお聞かせください

昭和58年、子どもをもつ親を対象にした公民館講座家庭教育学級の母親たちの

集まりに、手芸の枠を超えて子どものためになり読書熱が高まればということで、布・フェルト・ビーズ等を使って立体感のある布絵本づくりを「ふきのとう文庫」の方を招いて研修したことが始まりです。1年がかりで「白雪姫」を制作、その感動が忘れられず、翌年「ふれあいサークル」を結成しました。その後は、エプロンシアターや遊具なども作って図書館や施設に寄贈し、出来上がりの作品をもって学校を訪問するなど読み聞かせ活動も積極的に取り組むようにしてきました。

### 活動を行っていて「楽しかったこと」「大変なこと」をお聞かせください

チクチクと針を進め、完成した作品を子どもたちに見せて喜んでもらったときはとてもうれしく、楽しいと思います。また、送られてくる感謝の手紙は大変励みになります。

「無理はしないように……」がモットーなので、日頃の活動の中で大変と感じることはありませんが、一時期、転勤などで会員が少なくなった頃は作業も少々焦りました。

### 「ここが地域に密着したグループの特長！」という点をお聞かせください

自分たちの技量の範囲で無理せず、コツコツと活動することをモットーに、みんなの話聞きながら手は動かして、合間にお茶とお菓子でティータイム、そんな時間を過ごすホンワカ温かい気分になれるサークルです。全員がそろって活動するのはなかなか難しいですが、それぞれの得意分野を生かし、お話や作るものを決める人、デッサンする人、布選びから買い付けまでをする人、作業が手早い人は他をお助けマン、仕上げをキッチリする人など分担作業もうまくできることも特長のひとつです。また、ボランティアとして読み聞かせはもちろん、お年寄りの食事会のお手伝いなど地域活動にも参加しています。

### 今までの活動の中で心に残っているエピソードをお聞かせください

町内のいちばん山奥にある小中学校を訪問したとき。読み聞かせをすぐに自分たちも体験したいといい、子どもらしい感覚で楽しく読み、演じてくれたこと。また、その年の学習発表会でエプロンシアターを自分たちで作り、私たちにみせてくれたことは、サークル全員が感動し、深く心に残るものになりました。

### 今後の活動に向けての抱負をお聞かせください

読書力不足をいわれる今日、幼い子どもと親を含めた絵本へのふれあいを考え、今まで通りの活動を息の長いものとして無理をせずに続けていきたい。それが地域の読書活動の普及に貢献できることになればよいと思っています。

## 布の絵本書名一覧表

番号	書名	番号	書名
1	しらゆきひめ	43	ななつのこ
2	ピーダマいくつ	44	いいこでねんねできるかな
3	かさこじぞう	45	ノタンみんなでわいわい
4	ひよこ ひよこ	46	かくれんぼ
5	すうじのうた	47	ノタン すごろく
6	エプロン	48	ちいさなまじよのぼうけん
7	まるさんかく	49	いくつ? 1・2・3・4・5
8	ふらいばんじいさん	50	どうようえほん
9	ふうせんまって	51	ポタンがふたつ
10	なんだろう	52	いない いない ばあ
11	ちょうちょう	53	きしゃ・どうぶつ号
12	きつねとパンの木	54	シンデレラ
13	あそぼう	55	いくつ?
14	三びきのこぶた	56	あかいぼうし
15	バスケットボール	57	まるまるぶたさん
16	さかなつり	58	ねずみのすもう(エプロンシアター)
17	どんぐりころころ	59	うさぎさんインフルエンザ(エプロンシアター)
18	もりのうんどうかい	60	はらぺこかいじゅう(エプロンシアター)
19	りんご・お花・ことり・ことりの家	61	さるかにばなし
20	ちえあそび?	62	どかんねこ
21	ドレミのうた	63	このいろなにいろ?
22	いない いない ばあ	64	ちいさなたまねぎさん
23	ぴかぴか おてて	65	かくれんぼだぁーれ
24	おやつをどうぞ!	66	おはなしのえほん
25	はなさかじいさん	67	だれのうち?
26	もこもこキューブ	68	のりもの
27	三びきのこぶた(エプロン式)	69	どうぶつ
28	はらぺこあおむし	70	おやゆびひめ
29	いただきますあそび	71	Greeting(あいさつ)
30	あかずきんちゃん	72	PUSAGI
31	はだかんぼにできるかな?(男女)	73	親子ネコのぬの絵本
32	おべんとうセット		
33	まどからのおくりもの		
34	どんなかおになるかな 4点		
35	ぬいぐるみ(動物) 8点		
36	日本人形 3体		
37	大きなかぶ(エプロン式)		
38	ジャックとまめの木(エプロン式)		
39	うらしまたろう		
40	へんしんどうぶつ		
41	うたのえほん		
42	ハイキング		

平取町立図書館所蔵の「ふれあいサークル」作成布絵本のリストをいただきました。展示やお話し会などで図書館などへの貸出も可能とのことなので、活用してみてもいいのでは?

# 北海道地域活動振興協会理事長賞 おはなし会「スキップ」 新得町

会員数：5名 平成6年3月設立 代表：戸塚淑江さん



教育長、図書館長とともに伝達表彰後の記念撮影。みなさんすてきな笑顔です。

## 活動の内容

月2回、図書館で読み聞かせを、月1回、高齢者施設で昔話の紙芝居や読み聞かせを行っています。また、年1～2回の高齢者健康教室では、体だけでなく心も健康にしようと、人形劇や紙芝居を行ったり、年3～4回の幼児遊び教室や子育て支援事業「遊びの広場」で読み聞かせや人形劇などを行っています。ブックスタートでの読み聞かせを行うなど、地域に密着した活動を続けています。

他にも、人形劇の講座を受講して人形の製作に挑戦したり、地域教育フォーラムでパネリストを務めるなど、活発な活動をしています。

## 代表の戸塚さんにお話を伺いました

### グループ設立の経緯をお聞かせください

1994年3月、読み聞かせボランティアを立ち上げたいという一利用者の呼びかけに本好きの仲間が集まり、図書館にて第1回おはなし会を開催しました。

### 活動を行っていて「楽しかったこと」「大変なこと」をお聞かせください

最初は高齢者を対象にした読み聞かせに不安があったのですが、「子どもの頃は家

の手伝いで忙しく、本など読めなかったし、ましてや買ってもらえなかった。読み聞かせを聞いて、また童心に返って読みたくなりました」という方がいらっしゃって、とてもうれしく思いました。私たち自身が楽しんで活動しているので、たいへんなことは特にありませんが、季節や話題に合わせマンネリ化しないように気をつけています。

「ここが地域に密着したグループの特長！」という点をお聞かせください



子どもを対象とした読み聞かせに限らず、「身体だけでなく、心も生き生き」を合言葉に高齢者健康教室や町内の高齢者施設へ定期的に出向き、大型絵本、紙芝居などの読み聞かせを実施しています。

今までの活動の中で心に残っているエピソードをお聞かせください

高齢者施設で「かわいそうなぞう」の読み聞かせをしていた時、一番前で涙を流して聞いてくださる方がいて、読み終えた後、理由を尋ねると東京に住んでいた頃、実際にその“ぞう”を見たことがあり、当時の事を思い出したと聞き、驚いたことがあります。

今後の活動に向けての抱負をお聞かせください

現在は5名で活動していますが、人形劇やペープサート、パネルシアターなどレパートリーを増やし、地域の子育て支援や高齢者支援になお一層貢献していきたいと思えます。また、この度の受賞を励みに、今後も「自分たちが一番楽しむ」ということをモットーに、子どもたちや高齢者の方たちと楽しく活動していきたいと思えます。



お年寄りの毎月のおたのしみ。今日は大型絵本です。

---

## 北読進協だより 第11号

発行年月日 平成17年12月22日

編集・発行 北海道読書推進運動協議会事務局

〒069-0834 江別市文京台東町4-1番地

北海道立図書館業務部市町村支援課内

TEL 011-386-8521

FAX 011-388-2063

---